

「三月四月」

伊藤 幸子

誰一人欠席のない教室に満開となる桜見ている

菊池陽

新年度、新学期の春に清
新な歌集が出版された。北
上市在住の菊池陽さんの
「次は君だよ」という瀟洒
(しよしや)な一巻であ
る。表紙デザインが「よう
さん人形」とあるように、
7章までをなんとも愛らし
い人形のほほ笑みにいさな
われてページが進むしくみ
になっている。

「誰一人欠席のない教室」
はいい。桜満開、日ざしも
いっぱい、子らのエネルギー
はちきれんばかり。

「難聴の生徒はいつも目
を見てる目で合図する次は
君だよ」「蹴上がりができ
ずいる子の哀しき顔少年期
なる我そこにおり」。

集名となった「次は君だ
よ」今は学級編成は30人ぐ
らいだろうか。難聴の子と

のコミュニケーション、目
で合図する「瞬間がある。
生き生きと、命の響き合っ
瞬間だ。そして先生の求め
る問いに、的確な答の返っ
てくる喜びは先生冥利とい
えようか。

「刺股が標準装備になっ
ている新築校舎も三年目に入
る」「生徒みな下校のあ
との教室は静かに呼吸整え
ている」「七年の単身赴任
を支え来し組板の凹み撫で
て労(ねぎり)こ」「休日
にスポン四本洗濯す疲れた
干物が並ぶ物干し」。

平易な言葉を定型に、分
かりやすい職場詠。さすま
たなんて児童の教育現場に
不要の物であるはずなのに、
標準装備になっている
現実。

「単身赴任」は何年に及
んだらうか。洗濯もして料
理もして、陽先生かいがい
しく忙しい。

「盛岡は幻にあらず待た

なくていいこの「椅子」を
民子に用意す」盛岡生まれ
の大西民子を顕彰し、盛岡
市上の橋の緑地に民子歌碑
が建てられたのは平成21
年。不肖の後輩の私も歌碑
除幕式には参列したが、そ
の折は菊池先生は現役でい
らして二高生に囲まれて輝
いておられた。

「かたはらにおく幻の椅
子一つあくがれて待つ夜も
なし今は」昭和31年ごろの
作品。この民子作品に呼応
して「盛岡は幻にあらず」
と詠み上げる。民子の感慨
を思つ春。

「この町の光も風も好
きだった」過去形にする転
勤辞令」「カイロまで発掘
調査に行きし妻メールが沙
漠の風と届きぬ」転勤、今
はどんな人でも体験する生
活習慣となっているが、そ
れにしても奥様の転勤、そ
れもエジプトとは、そのス
ケールの壮大きさに驚く。

「へ先生」と泣かれて別
れへ先生」と笑顔で呼ばれ
る三月四月」「へようさゝ
ん」と振る手が次第に遠ざ
かる断ち切りぬべくアクセ
ルを踏む」地に低くアスマ
イチゲが咲いている。

(八幡平市、歌人)